

教育コース通信 2021 (NO.5)

愛知県立豊橋南高等学校 教育コース

東北スタディツアー (EDU1, 2)

令和3年7月26日(月)～28日(水)の3日間、1・2年生が東北スタディツアーに参加し、「防災学習」「地域交流」「歴史」をテーマに学んできました。



＜ 豊橋駅にて ＞



＜ 東京駅にて ＞

【大川小学校、雄勝小学校跡地を訪問】

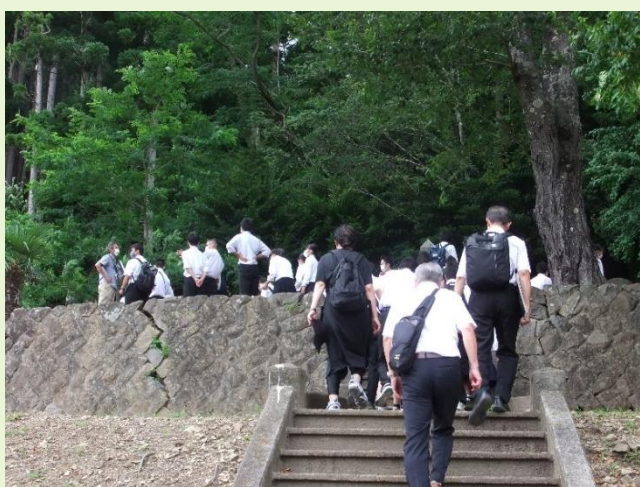
仙台駅に着いたあと、生徒たちは津波の被害にあった大川小学校へ行きました。10年が経過し、震災遺構として整備された小学校跡地でガイドの説明を聞きしました。ねじ曲げられた鉄筋、崩落した渡り廊下など、津波の威力を目の当たりにし、震災伝承館で被災者の声に触れ、生徒たちは大きな衝撃を受けていました。





雄勝小学校跡地では、当時の雄勝小学校教員の徳水博志先生から状況を説明していただきました。生徒たちは実際に裏山へ上り、津波の恐ろしさを実感することができました。山の中腹には、津波で運ばれてきた貝やガラス片や履き物などが残っており、防潮堤工事の様子を見ることができました。

裏山への非難を決めるまでの経緯もつぶさにお聞きし、当時の混乱や切迫した様子を感じとることができました。



2年生は、南三陸ホテル観洋に宿泊しました。海の幸がふんだんに用いられた食事を、感染防止に留意しつつもおいしくいただき、波の音を聞きながら南三陸の夜を満喫しました。夕食後は、1日目のテーマ「震災当時の東北」に関する気づきや出会いについて振り返りました。多くの犠牲者が出た大川小とほとんどが無事だった雄勝小の分かれ道はどこにあったのか、教員の立場から考える生徒、これからの防災訓練について考えた生徒、事前学習で調べて分かったことと、現地に来て得たもののギャップについて述べる生徒など、さまざまな意見が出され、全員で共有しました。



【防災学習センター研修】

2日目の午前は気仙沼市にある防災学習センターにて研修を行いました。生きるために必要なものを自分たちでまかなうことの大切さ、そのために森を守る、育てる、保つことの重要性を学びました。



東日本大震災後のまちづくりの持続可能性・循環型の中核となったバイオガス施設の話は豊橋市と通じるものがあり、生徒たちも身近なものとして話を聞いていました。また、箸置き作り体験では、スギの木材を使用し森林を守る、育てる、保つことを実感しながら活動を行いました。



【宮城県気仙沼高校訪問】

午後から宮城県気仙沼高校を訪問しました。当日は台風の影響もありましたが、交流を深めることができました。



「10年後の未来が抱える課題」について積極的に議論を行いました。短い時間ではありましたが、気仙沼高校の生徒たちとより深くコミュニケーションを取ることができました。

※集合写真のみマスクをはずして撮影しました。



宿舎では、1・2年生合同で振り返りを行いました。2年生が話し合いの中心となり、1年生も意見を出していました。

【松島観光】

松島で班別で散策を行いました。牛タンやすんだ餅といった名物料理や松島の景観を楽しみました。



※ 集合写真のみマスクをはずして撮影しました。